

# 第2章

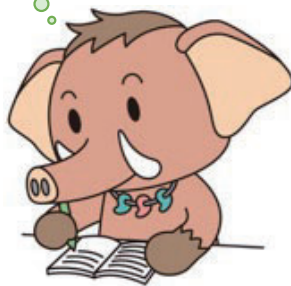
## まちづくりの目標

第2章では、私たちが暮らすこの街の未来を明るく照らすために、将来の目標やまち全体の都市構造など、まちづくりの目標を提言します。

- 1 まちづくりの理念と将来像
  - (1) まちづくりの基本的な考え方
  - (2) まちづくりの理念と将来像

- 2 将来の姿
  - (1) 目指すべきまちの姿
  - (2) まちづくり基本目標
  - (3) 目標人口
  - (4) 将来都市構造

10年後、20年後・・・  
どんなまちになっているモス？



みどモス

将来のまちをどんなふうにしていくか  
一緒に考えていきましょう。





# 1. まちづくりの理念と将来像

## (1) まちづくりの基本的な考え方

まちづくりを進めるにあたっては、すべての分野において同じ目標を共有し、その実現に向けて取り組んでいく必要があります。本計画においては、本市の最上位計画である「第2次みどり市総合計画」に掲げられている「将来のまちの姿」を共有し、その実現を目指します。

まちづくりの理念については、「第2次みどり市総合計画」のまちづくりの理念を都市計画・都市政策の視点から設定し、将来像については「第2次みどり市総合計画」の将来像を位置づけます。

### ○参考：第2次みどり市総合計画後期基本計画 基本構想（抜粋）

基本構想は、2018（平成30）年度から2027（令和9）年度までの10年間を計画期間とし、みどり市を将来どのようなまちにしたいか、基本的な考え方として「まちづくりの理念」を掲げ、その理念に基づき目指すべき将来像を示しています。

まちづくりの考え方や目指すべき方向性は、市政を運営する上で原則的かつ普遍的な考え方であるため、後期基本計画における基本構想は、前期基本計画において掲げた「まちづくりの理念」と「将来像」、さらには、その将来像の実現に向けた4つの「基本戦略」に基づくものとなります。

#### まちづくりの理念

- 人が生きることと豊かな自然が共生するみどり市をつくります  
【人と自然の共生】
- 人の活動とまちに資源が織りなす豊かさづくりに取り組みます  
【地域資源の活用】
- 人とひとが助け合い、協働してまちづくりに取り組みます  
【助け合いと協働】



#### 将来像

**輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市**

#### 基本戦略

- ①人が輝くまちづくり
- ②安全で快適なまちづくり
- ③活力あふれるまちづくり
- ④自立と協働のまちづくり

## (2) まちづくりの理念と将来像

本市の最上位計画である「第2次みどり市総合計画」に掲げられている将来のまちの姿の実現のため、都市計画の視点から、まちづくりの理念及び将来都市像を設定します。

### ●まちづくりの理念

豊かな自然と多様な特性を生かし、  
人々が心豊かに生活できるまちづくりの実現

### ●将来都市像

輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市

## 2. 将来の姿

### (1) 目指すべきまちの姿

みどり市内の各地域（笠懸町、大間々町、東町）にはそれぞれ特有の魅力が存在します。  
 みどり市が継続して発展していくためには、市全体が一丸となって課題解決に取り組み、各地域で不足する機能を地域間で補い、それぞれの地域が持つ魅力を最大限に高める必要があります。  
 そこで、「まちのまとまり・まちのつながり・まちの誇り」の3つの視点から、将来の姿（目指すべきまちの姿）を定めます。

#### ●まちづくりの考え方



- まちのまとまり・・・拠点と居住のまとまり
- まちのつながり・・・公共交通や道路などの交通ネットワーク
- まちの誇り・・・自分の住んでいる地域を「誇り」と思える
- 拠点・・・都市機能や産業のまとまり

## (2) まちづくり基本目標 .....

「第2次みどり市総合計画」の基本戦略や目指すべきまちの姿を踏まえ、まちづくりの目標として「まちづくり基本目標」を設定します。

### ●まちづくり基本目標

#### 目標1 まちのまとまりで輝きながら暮らせるまちづくり

年齢や障害の有無に関係なく、すべての人々が快適・安全・安心に暮らしていくことができるまちづくりを進めます。

#### 目標2 まちのつながりによる一体的なまちづくり

地域の連帯をさらに強固にし、それぞれの特性と資源を生かしながら、市民と行政が協働したみどり市としての一体的なまちづくりを進めます。

#### 目標3 輝くみどりと市街地が共生するまちづくり

本市の貴重な財産である豊かなみどりを保全しながら、多くの人々が生活して活動する市街地を計画的に形成し、それらが共生するまちづくりを進めます。

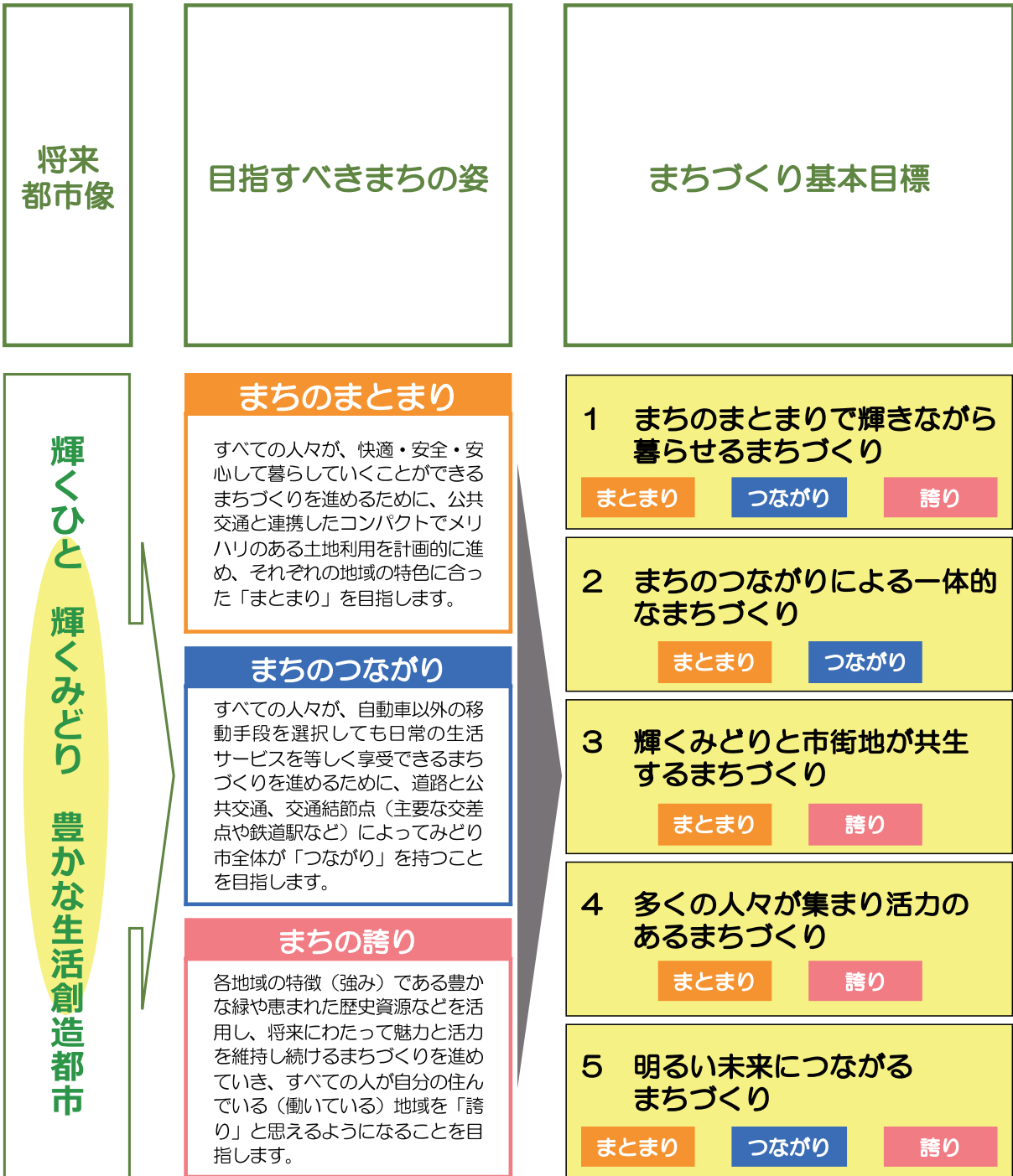
#### 目標4 多くの人々が集まり活力のあるまちづくり

恵まれた自然資源や歴史資源などを活用しながら、人々が活動しやすい場の整備を進め、多くの人々が居住するだけでなく、訪れることで交流・活力が生まれるまちづくりを進めます。

#### 目標5 明るい未来につながるまちづくり

災害に強く、将来にわたって魅力と活力のあるまちを形成し、後世に引き継いで地域を誇りに思えるまちづくりを進めます。

(将来都市像・目指すべきまちの姿・まちづくり基本目標の関連表)



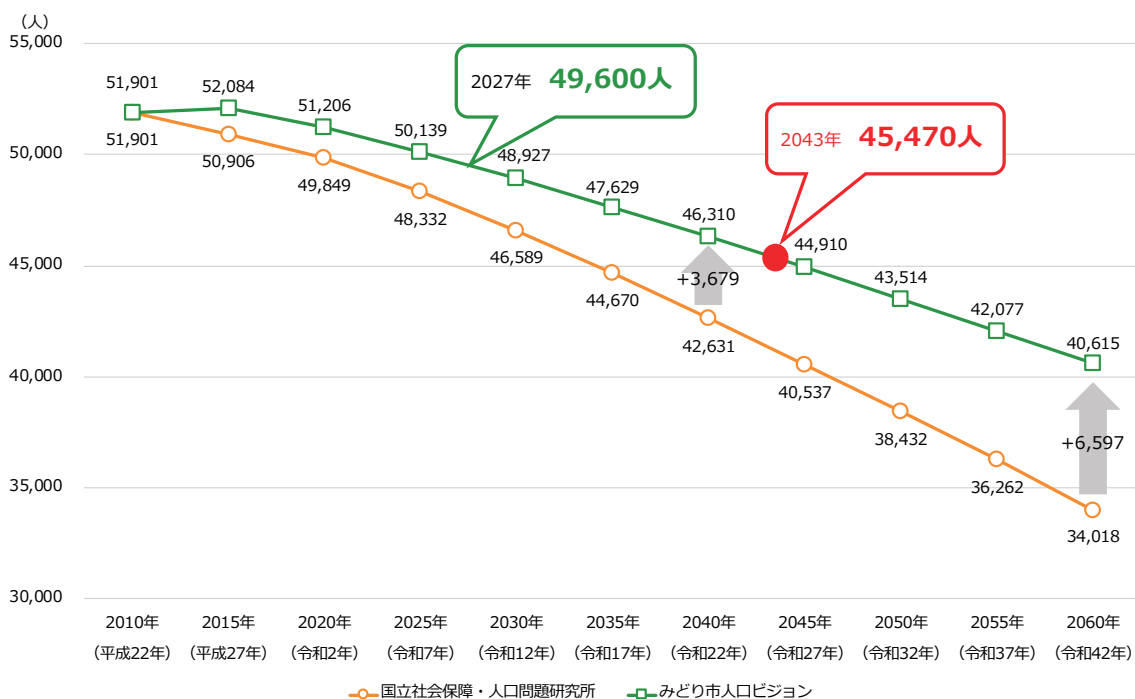
### (3) 目標人口

本市では、2016（平成28）年3月に「みどり市人口ビジョン」及び「みどり市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、本市における人口の将来展望として2040（令和22）年の人口を46,310人と設定し、人口減少の抑制に努めています。

また、第2次みどり市総合計画では、この人口ビジョンで示した人口の将来展望を踏まえ、総合計画の目標年次である2027（令和9）年の人口を49,600人と想定しています。

このため、本計画の目標人口については、上位計画である第2次みどり市総合計画と同様に、人口ビジョンで示した人口の将来展望を踏まえて、目標年次である2043（令和25）年の人口を「45,470人」に設定します。

## 2043（令和25）年の目標人口：45,470人





## (4) 将来都市構造

将来都市像やまちづくりの目標を達成するための将来都市構造は、「土地利用」、「拠点」、「都市軸」の3つで構成し、それぞれの考え方を以下に示します。

### ①土地利用

現状の地域構成や各種計画・構想を踏まえ、土地利用の適正化を図るための基本的な地域区分を設定します。

区分	位置づけ
市街地・農地共生利用	笠懸町全域と大間々町南部は、広く市街地と農地が分布しているため、「市街地・農地共生利用」として区分し、農地の周辺環境との共生に配慮しながら、市街地としての計画的な土地利用を図り、優良な営農環境などを保全することを目指します。
自然環境・交流利用	大間々町北部と東町全域については、主に農地や山林などの自然的土地利用が占めているため、「自然環境・交流利用」として区分し、人々の交流を目的とした観光やレクリエーションの場としても適正に活用しながら、森林や農地などの優良な自然環境を将来にわたって積極的に保全することを目指します。

### ②拠点

まちづくりの目標を実現するために、土地利用区分の考え方を踏まえて、商業・業務・文化・行政等の都市的サービス機能を強化・充実させる拠点を設定します。

区分	位置づけ
地域拠点	岩宿駅・阿左美駅周辺を「笠懸地域拠点」、赤城駅・大間々駅周辺を「大間々地域拠点」、花輪駅周辺を「東地域拠点」と位置づけ、地域住民の生活と地域の発展を支える中心として、商業、行政サービスをはじめとする多様な都市機能の充実を図ることを目指します。
観光・レクリエーション拠点	「岩宿遺跡」「西鹿田グリーンパーク・鹿田山フットパス」「ながめ余興場・高津戸峡」「小平の里」「富弘美術館」「袈裟丸山」の各周辺を「観光・レクリエーション拠点」に位置づけ、自然資源や歴史資源を守りながら、交流人口の増加にも配慮し、観光やレクリエーションの場として適正かつ積極的に活用していくことを目指します。
産業拠点	笠懸町南部の既存工業団地周辺地域と、笠懸町北部の渡良瀬幹線道路沿いを「産業拠点」と位置づけ、高い生産性や付加価値、競争力などを生み出す産業が集積した拠点を目指します。

## ③都市軸

各拠点や桐生市などの周辺都市を有機的に結ぶ都市の骨格となる道路や公共交通などの交通ネットワークを示し、一体感のある市街地形成を図るための軸を設定します。

区分	位置づけ
中心軸	地域拠点同士を結び、本市と周辺都市との連携の主軸となる北東部から南部を結んだラインを「中心軸」と位置づけます。そして、この軸を担う国道 122 号や渡良瀬幹線道路などを骨格として道路網整備を進め、さらにはわたらせ渓谷鐵道を活用して連携の強化を図ります。
広域交流軸	中心軸を補完し、本市の市街地が集中する市南部と周辺都市を東西方向に結ぶラインを「広域交流軸」と位置づけ、国道 50 号前橋笠懸道路や主要地方道桐生伊勢崎線の整備促進により機能強化を図ります。
地域間交通軸	大間々地域から東地域を經由し日光市までを結ぶラインと鉄道が連携されていない大間々地域と笠懸地域を結ぶラインを「地域間交通軸」と位置づけ、地域の連携をバス等の公共交通ネットワークで補うことにより、機能強化を図ります。

# 将来都市構造図

